

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・主力製品のTシャツの売上のピークは例年7、8月であり、8月中に新たな商品の開発が予定されていることから、この商品の売行きによって9月以降の売上は左右される。
	やや良くなる	一般小売店〔衣料・雑貨〕（店長）	・観光客が絶えず来店しており、近くにホテルがオープンしたことから観光客の滞在時間の延長が予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・一部の商品群で徐々に売上単価が上がってきており、これから期待できる。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・当商店街では、新規の集客施設のオープンや夏祭り等、多くのプラス要因が、今後予定されている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・イベントに対する反応や外食頻度は高くなっている。ただし、スタッフに求められる能力は高くなっており、考え方や技能アップのための経費と時間が増大している。
		観光名所（職員）	・台風等の影響で当施設の来客数は伸び悩んだが、今後の旅行環境に大きな変化はなく、来客数は回復する。
		ゴルフ場（経営者）	・事前に利用人数の増加に努めたこともあり、今後は増加する。
		住宅販売会社（経営者）	・競争相手が設備投資や土地の購入に走っていることから、景気はかなり明るくなってきている。
	変わらない	百貨店（担当者）	・消費者の視点が価格から鮮度の高い商品に変わることから、今後、クリアランス時の主力衣料品については継続した動向は見込めない。今後は初秋の展開が消費動向のポイントとなる。また今年沖縄においては旧盆が8月末であることから、7月は食品ギフトが低迷するものの、これは瞬間的な傾向であり、オリンピックと合わせ8月にはある程度の回復が見込める。
		スーパー（企画担当）	・新規出店が昨年から相次ぎ、オーバーストア状態になっている感がある。また、総額表示等の影響で、売上単価が上がっていないことから、しばらくはこの状況が続き、売上も思うようには伸びない。
		コンビニ（経営者）	・対前年同月比で、売上及び来客数は8ポイント増加している。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価は横ばいとなっており、下げ止まった感がある。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店出店でスクラップアンドビルドに拍車がかかる。最終的には出店件数はやや微増になる。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・マーケット環境に大きな変化がなければ、現状の好調さは維持する。
やや悪くなる	一般小売店〔鞆・袋物〕（経営者）	・大型ショッピングセンターの出店により、地域間競争が激しくなり、既存の店は全体的にかなり影響を受けているようである。	
	スーパー（経営者）	・今月末から夏場にかけて、競合店の出店等があり、現状よりかなり厳しい状況になる。	
悪くなる	商店街（代表者）	・一般商品を販売している市場内の商店から、ますます増設している外周部の大型店に客が流れている。 ・街中には観光客の姿が多々見られることから、商売対象を観光客向けに変更する店も出ているが、観光客もリピーターが多く、なかなか売上には結び付いていない。今後も大変厳しい状況が続く。	
	家電量販店（副店長）	・競合店との競争が激化する一方、客の買い控えが発生し、商品単価の下落が止まらない。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・問い合わせ件数が増えていることから、2、3か月後の受注量の増加が見込める。
		輸送業（営業担当）	・団体客の増加が期待される。
		輸送業（総務担当）	・既存荷主が効率化のため、アウトソーシング業者を選別し始めている。その結果、物量が増加しつつある。
	変わらない	通信業（従業員）	・現在、単月では利益を確保できる程度に回転しており、IT業界全体は景気低迷の中において、今後、大きな期待はできないにしても横ばいで推移する。
		通信業（営業担当）	・受注は増加しているが、この傾向が今後も右肩上がりでも推移するとは思えない。
		不動産業（支店長）	・相変わらず、景気回復の兆しが見えない。

	やや悪くなる		
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・雇用に関して、県や他の機関と派遣会社とが連携した新しい試みがスタートするため、派遣の実数的な数字が更に上がることが期待される。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・夏の繁忙期を迎え、観光客の増加に伴う観光関連サービス業企業からの求人数の増加が期待される。また、オープン間もない大型店や年末オープン予定の大型スーパー・ホームセンター関連のスタッフ募集による求人数の拡大も期待される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・夏場に向かい、観光関連業は更に好転し、それに伴い雇用環境もやや良くなる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求職者数は3か月前比で8.8%増加しており、特に雇用保険受給者及び中高年齢者の求職者が増加している。また、3か月前比で事業主都合離職者が38.6%、自己都合離職者が13.6%とそれぞれ増加している。新規常用求職者の年齢構成は30歳未満の若年者が45.7%で3か月前比で3.8%増加し、45歳以上中高年齢者は21.4%と3か月前比で7.9%の増加となっている。有効求職者は3か月前比で20.5%増加しており、いったん離職すると再就職が厳しい状況となっている。雇用情勢は依然厳しい状況が続いている。
学校〔専門学校〕（就職担当）		・求人件数は、今後数か月は落ち着くが、その後の動向に左右されるという懸念もある。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-